

〔箋注倭名類聚抄男一女〕按、新撰萬葉集、浮岩訓字加流、宇加禮女、浮岩女也、阿曾比樂也、謂歌舞以助

宴、

〔毛詩周南〕南有喬木、不可休息、漢有游女、不可求思、

〔類聚名義抄二〕遊行女兒一ウカレメ、一ニヤホチ、一ニアツヒ、

〔伊呂波字類抄字〕遊女長遊女是也 遊行女兒已上同

〔萬葉集十八〕教諭史生尾張少昨歌一首并短歌略 中

南吹雪消益而射水河、流水沫能余留弊奈美、左夫流其兒爾、比毛能緒能、移都我利安比氏爾保騰里能、布多理雙坐、那吳能宇美能於伎乎、布可米天、左度波世流、伎美我許己呂能、須敵母須弊奈佐、

言佐夫流者、遊行女婦之字也。三〇反歌 略 右五月寶元天平感十五年守越中大伴宿禰家持作之、

〔空穂物語藤原君〕君達の御前にうかかれめ。廿人ばかり、ことひきうたうたひて、御ぞ給はれり、

〔榮花物語松のしづえ〕かくて二月五年延久はつか、天王寺に詣させ給、後三條廿二日のたつとき

ばかりに、御船いだしてくだらせ給ふ程に、江口のあそびふたふねばかりまいりあひたり、〇あた

リ原脱、據一本補、祿などをぞたまはせける、

〔新猿樂記〕十六女者、遊女。夜。發。之。長者、江口河尻之好色、所慣者、河上遊蕩之業、所傳坂下無面之風也、晝荷笠任身上下之倫、夜叩航懸心往還之客、抑淫奔嬖嬖之行、偃仰養風之態、琴絃麥齒之德、龍飛虎步之用、無不具、加之聲如頻伽、貌若天女、雖宮木小鳥之歌、藥師鳴戸之聲、准之不敵、喻之不屑、故孰人不迷眼、誰類不融心、於戲年若之間、自雖過賣身、色衰之後、以何送餘命哉、

〔平家物語五〕ふじ川の事

同じき〇治承四年十月二十四日の卯のこくに、ふじ川にて、源平の矢あはせとぞさだめたりける、廿三日

日の夜に入て、〇中その夜の夜半ばかりに、ふじのぬまに、いくらも有ける水鳥ども、なに、かは